

【応募方法等】 必要書類を提出期間内に県農業水産局農政部食育消費流通課宛てに提出
提出期間：2026 年 5 月 7 日（木）から 6 月 19 日（金）必着 出品要件、応募方法、審査基準などの詳細や応募書類の様式などは下記 Web ページをご覧ください。「『2026 年度愛知のふるさと食品コンテスト』への出品商品を募集します」

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/r8hurusato-boshu.html>)

【提出先及び問合せ先】愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 需要拡大・ブランド力強化グループ 〒460-8501 名古屋市中区三の丸 3-1-2 電話 052-954-6434 FAX 052-954-6940

E-mail：shokuiku@pref.aichi.lg.jp

Web ページ <https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/iitomoaichi/>

◆ 3 ◆ その他地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆キャベツ自動収穫機見学会のご案内（6 月 26 日開催）

ー主催ー キャベツ自動収穫機導入技術研究コンソーシアムー

加工・業務用キャベツへの需要拡大により、産地には安定供給が求められていますが、生産現場では高齢化と人手不足が深刻化しています。特に収穫から箱詰めまでの作業負担が大きく、労働力不足から栽培面積を縮小する例もあります。既存の収穫機は作業効率が作業者の熟練度に左右される点が課題です。

加工用キャベツは重量があり、収穫時に玉落ちが起きやすく、狭畦（きょうけい）栽培では機械適応性が不足することから収穫不能リスクが高くなります。

本見学会は、自動収穫機を導入して収穫作業を省力化・標準化し、加工・業務用キャベツの安定供給を図るものです。

・開催日時 2026 年 6 月 26 日（金） ＊要参加申込

・開催場所 茨城県つくば市

▽詳細はこちらから▽

<https://www.naro.go.jp/event/list/2026/05/175642.html>

◆ 4 ◆ 2026 年度の競争的研究資金について

【研究開発関連】

■省庁等

☆NEDO:「グリーンイノベーション基金事業/食料・農林水産業の CO2 等削減・吸収技術の開発」

☆環境省（執行団体：独立行政法人環境再生保全機構）:「令和 8 年度環境保全研究費補助金（イノベーション創出のための環境スタートアップ研究開発支援事業）の公募（間接補助事業）」

■民間等

☆積水化学工業株式会社:「2026 年度「自然に学ぶものづくり」研究助成」

☆公益財団法人サントリー生命科学財団：「2026 年度 SUNBOR GRANT」

【研究開発関連以外】

■民間等

☆一般社団法人農林水産業みらい基金：「2026 年度農林水産業みらいプロジェクト」

<https://www.miraikikin.org/support/>

分野等：

本プロジェクトは、以下の支援に取り組むことを通じて、農林水産業と食と地域のくらしの発展に貢献することを目的とする。

1. 農林水産業の持続的発展を支える担い手への支援
2. 農林水産業の収益力強化に向けた取組みへの支援
3. 農林水産業を軸とした地域活性化に向けた取組みへの支援

公募期間：2026 年 5 月 14 日～6 月 30 日

2026 年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧下さい。<https://www.biotech-tokai.jp/>

◆ 5 ◆ その他の情報

(1)新技術情報

☆稲作関係

2024 年の夏季高温がイネの不稔に及ぼした影響

2024 年の夏季は記録的な高温となり、イネの不稔が通常年より多く発生した。そのため、本県の主要品種の不稔率と、イネの不稔に影響するとされる出穂期の前後 5 日間の平均最高気温および施肥窒素量について調査した。出穂期の前後 5 日間の平均最高気温は、37.9℃と平年に比べ 4℃以上高い試験区もあり、高温条件での試験であった。発生した不稔は、カメムシの吸汁によるものはごく少なく、主に高温が要因であると判断された。不稔率は、多くの試験区で 10%以下であった。不稔率が 10%を上回った試験区は、窒素施肥量が少ない減肥区であったことから、高温年では窒素施肥量が少ないほ場では不稔率が高まることが示唆された。一方、本県の主要品種について不稔率の品種間差は認められなかった。

愛知農総試研報 57:28-31 (2025)

☆果樹関係

果樹の温暖化被害(着色不良・日焼け・晩霜害)を予測するシステムを開発

ー 必要な適応策(対策)の実施と、過剰な対策の回避をサポート ー

近年、果樹では着色不良、日焼け、晩霜害などの温暖化に起因する被害が増えています。

そこで農研機構では気象データに加え、果樹の種類や発育状況を考慮することで、被害発生

を高い精度で予測するシステムを新たに開発しました。

このシステムにより、生産現場では被害発生前の対策の必要性を的確に判断できるため、利用者に適時の必要な対策実施を促すとともに、必要以上の対策の回避が可能になります。その結果、温暖化に伴う果樹生産の損害や対策コストの低減が期待できます。

▽詳細はこちら▽

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/173098.html

.....

編集後記

6月に入って大型の台風6号が列島を通過しました。東海地方も梅雨入りしたと発表されています。

さて、東海生研の第1回セミナーを今月15日(月)に開催します。今回は「作物育種イノベーションが変える未来：雑種強勢のしくみが貢献する脱炭素社会」についてご講演をいただきます。また、交流会も16時より行いますので、どうぞふるってご参加ください(会場参加の他、オンライン参加も可能です)。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料)のご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>